

一般社団法人日本データベース学会 2025 年度 定時総会

【議案】

第 1 号議案 2024 年度に係る報告等

1-1. 2024 年度事業報告書

1-2. 2024 年度決算書（決議事項）

1-3. 監査報告書

第 2 号議案 2025 年度に係る計画等

2-1. 2025 年度事業計画書

2-2. 2025 年度予算計画書

2025 年 6 月 21 日

一般社団法人 日本データベース学会

<https://dbsj.org/>

目 次

【議案】

第 1 号議案	2024 年度に係る報告等	・ ・ ・ ・ ・	1
1-1.	2024 年度事業報告書	・ ・ ・ ・ ・	2
1-2.	2024 年度決算書（決議事項）	・ ・ ・ ・ ・	19
1-3.	監査報告書	・ ・ ・ ・ ・	25
第 2 号議案	2025 年度に係る計画等	・ ・ ・ ・ ・	27
2-1.	2025 年度事業計画書	・ ・ ・ ・ ・	28
2-2.	2025 年度予算計画書	・ ・ ・ ・ ・	42

[第 1 号議案]

1. 2024 年度に係る報告等

1-1. 2024 年度事業報告書

1-2. 2024 年度決算書（決議事項）

1-3. 監査報告書

[第 1 号議案]

1-1. 2024 年度事業報告書

1. 概況
2. 会員数について
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業 1：一般社団法人としての運営
5. 実施事業 2：若手活性化
6. 実施事業 3：会員交流
7. 実施事業 4：イベント・国際連携・学会連携
8. 実施事業 5：最強データベース講義
9. 実施事業 6：データ作法（セミナー等）
10. 実施事業 7：学生企画
11. 実施事業 8：産学連携推進
12. 実施事業 9：情報システム
13. 実施事業 10：広報
14. 実施事業 11：論文誌編集
15. 実施事業 12：表彰
16. 実施事業 13：ハラスメント防止・D&I 推進

2024 年度事業報告書

1. 概況

当法人は、前身である任意団体日本データベース学会の事業を切れ目なく引き継ぐと共に、定款第3条に定める「データ、データベースならびにデータ高度応用・システムを主軸とした科学・技術の振興と人材の育成を図り、国内外のデータベース関連学術団体と連携しつつ、フットワーク軽く、産学連携、国際的協調、新領域開拓を先導し、学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与すること」を目的として活動を進める。

2024 年度は、一般社団法人日本データベース学会としての事業を行う 4 年目であった。2021 年度には各種規程を制定し、一般社団法人としての活動を開始した。2022 年度には役員を改選し会長が交代したのに伴い、委員会構成を整理し、新しい体制で学会活動を実施した。2023 年度は、より良い活動を目指して必要な制度改正、内規の整備を行い、さらなる学会発展を目指す方向性、活動について議論した。2024 年度は役員改選を行い、委員会体制を刷新し、新たな活動として若手活性化、会員交流に焦点をあて事業を推進した。これにより、本会の目的にそって定款第4条第1項に定める事業を滞りなく行った。

具体的には、下記に示す重点活動項目の活動を通じて学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与してきた。

2. 会員数について

2021 年度の定時総会までに、前身である任意団体日本データベース学会の全会員に対し移行意志の確認を進め、移行意志を確認できた者を定時総会が開催された時点での会員とした。その後、正会員、学生会員、維持会員ともに順調に増加している。それに加えて、2021 年度より DEIM の参加者は DBSJ 会員となることのできる特典を享受できるようにしたことにより、正会員数が 2022 年度は 822 名、2023 年度は 895 名と大幅に会員が増加した。

2023 年度定時総会で定款を改定し、正会員を第一種と第二種に分割し、従来のフルアクセス権付正会員を第一種、フルアクセス権なし正会員を第二種に移行した。従来 DBS 研、DE 研登録者はフルアクセス権付だったが、その特典を無くし、第一種正会員は年会費を支払うこととした。ただし、DEIM 参加者は翌年度の年会費を免除する。これにより、その年度の年会費を支払ったか、前年度の DEIM に参加した正会員が第一種正会員と

なる。2024 年 4 月に DEIM2024 参加者から第一種正会員、学生会員への登録作業を行った。2024 年 7 月に、DEIM2024 に参加せず、2024 年度の年会費を支払わなかった第一種正会員 68 名を第二種正会員に変更した。

2025 年 2 月 27 日から開催された DEIM2025 では、会員価格で参加する条件として、事前に会員となることを徹底したため、参加申し込み前の入会が増加した。

名誉会員は、2024 年 3 月に 15 名任命した後、2025 年 1 月に 1 名任命した。

維持会員は、2024 年度総会後に 2 社入会したが、1 社退会した。

以下に、2021 年度から 2024 年度まで各年度の総会時点と 2024 年度末（2025 年 3 月末）時点での会員数を示す。

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年 3 月末
正会員	484 名	822 名	895 名	944 名	1013 名
第一種				419 名	365 名
第二種				525 名	648 名
名誉会員				15 名	16 名
学生会員	74 名	503 名	750 名	989 名	1198 名
維持会員	21 社	26 社	26 社	24 社	25 社

今後も DEIM 参加者が DBSJ 会員となることのできる特典を継続するとともに、セミナーやフォーラムの機会を通じて、会員増加に努めていく。

3. 会議等に関する事項

下記の会議を実施した。遠隔会議システム等を利用し効率的な運用に努めた。

3.1 2024 年度 定時総会

2024 年 6 月 22 日(土)にリクルート（本社）にて、ハイブリッドで開催した。

3.2 理事会および各種委員会

理事会は以下の通り、計 8 回開催した。

第 34 回はハイブリッド開催、他はオンライン開催であった。

第 29 回：2024 年 5 月 31 日(金)	第 30 回：2024 年 6 月 2 日(土)*
第 31 回：2024 年 7 月 27 日(木)	第 32 回：2024 年 10 月 7 日(月)
第 33 回：2024 年 11 月 26 日(火)	第 34 回：2024 年 12 月 14 日(土)*
第 35 回：2025 年 2 月 5 日(水)	第 36 回：2025 年 3 月 29 日(土)

維持会員が参加する評議委員会を 2024 年 9 月 24 日(火)にオンラインにて開催した。
その他各種委員会もすべてオンラインにて開催した。

4. 実施事業 1：一般社団法人としての運営（定款第 4 条第 1 項 8 号）

担当：総務委員会・財務委員会

総務委員会および財務委員会は、一般社団法人日本データベース学会の運営を円滑に進めることを目的に活動している。日常業務を効率よく推進すると同時に、よりよくするために継続的に改善している。

活動概要では、今年度の改善項目を挙げている。

【活動概要】

4.1 会員・会費制度の継続的見直し

会員規程を第一種正会員と第二種正会員の権利を明示するように改定し、それに従って DEIM2025 の参加費を設定した。また、DEIM2025 の参加申し込みの際、会員には DBSJ 会員証明 ID を記載してもらうことで、会員 DB との照合を効率化した。2023 年度に名誉会員に関する内規を整え、名誉会員を 15 名選出した。2024 年度には 1 名追加があった。また 2024 年度には、すでに退会されている方も名誉会員として選出できるよう規定を改定した。

4.2 委員会や組織の構成の継続的見直し

定款第 4 条に示す本会が推進すべき事業を円滑に進めるため、委員会や組織の構成を随時見直している。2024 年度は若手活性化委員会、会員交流委員会を新設し、ハラスメント防止・D&I 推進委員会を常設委員会として追加した。ほとんどの委員長が交代し、前委員長がアドバイザーとしてサポートする新しい体制で運営した。2025 年度の事業計画を策定するなかで、D&I を DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）とし、ハラスメント防止・DE&I 委員会と名称変更することになった。

4.3 DBSJ 主催による各種活動の支援

DBSJ 主催イベントを活性化するため、DEIM 等の DBSJ 主催の各種イベントの開催における一部経費を支援することになっている。

2024 年度は DEIM2025 のケータリング費用を支援した。

4.4 事務局業務の円滑な遂行

事務局業務を円滑に遂行するため、事務局業務の一部委託を継続している。
また、専門的な知識が必要となる課題を解決するため、必要に応じて専門家への業務委託を実施することになっているが、2024 年度は特に業務委託の必要はなかった。

4.5 理事交代方法改善の検討

2024 年度の委員会体制では、委員長が交代した場合、前委員長がアドバイザーになってサポートするようにした。これにより、役員選挙の実施方法を変更しなくとも、委員会が実施している事業の継続性が担保され则认为。次回の役員選挙においても、実施事業の継続性を考慮して、役員候補を選出する
連携組織（DBS、DE、SIGMOD-J）の組織長が理事以外の人に交代した場合には、つぎの役員選挙までは、理事会にオブザーバ参加していただくことで対応している。

4.6 会計業務の継続的見直し

2023 年度に、一般社団法人日本データベース学会は、消費税課税業者となった。さらに、2023 年 10 月からはインボイス制度、2024 年 1 月 1 日からは電子帳簿保存法が施行されたため、外部の税理士法人による定期的な内部会計監査などを実施してきた。2024 年度も税理士法人の支援を得ながら、継続的に会計業務の見直しを実施している。

4.7 本会活動の継続的検討

一般社団法人日本データベース学会として、本会の活動全体を定款第 4 条第 1 項の各号の内容にそって、継続的に見直しを進めてきた。具体的には、9 月 24 日に開催した評議委員会にて、維持会員の代表である評議委員からの意見を伺い、本会の活動を見直した。12 月 14 日に第 34 回 DBSJ 理事会をリアル会場および Zoom によるハイブリッドで開催し、理事会終了後に来年度以後取り組むべき課題についてディスカッションした。ディスカッションの結果を 2025 年度事業計画に反映している。

5. 実施事業 2：若手活性化（定款第 4 条第 1 項 8 号）

担当：若手活性化委員会

本事業の目的は、本学会の未来を担う若手研究者の活動を活性化させるための機会を提供するものである。若手研究者が主体的に行う研究活動の事務的・金銭的支援や、若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動を DBSJ として実施する。

【活動概要】

(1) 若手研究者によるオーガナイズドセッションの開催支援

2024 年 9 月に開催した WebDB 夏のワークショップ等において、若手研究者によるオーガナイズドセッションを募集すると共に開催支援を行った。具体的には、招待講演者招聘費用等の金銭的サポートを行うと共に、会場手配等の事務手続きを本委員会がサポートした。

WebDB2024 オーガナイズドセッション(i)

「偽情報対策技術」

オーガナイザ：佐々木 佑樹，北島 信哉（富士通株式会社）

一般発表 3 件と 1 件の招待講演。

WebDB2024 オーガナイズドセッション(ii)

「大規模言語モデルとデータ管理：機会と脅威」

オーガナイザ：曹 洋（東京工業大学）

4 件の招待講演とパネルディスカッション。

(2) 若手オーガナイズド研究イベントの研究業績(ジャーナル)化支援に関する検討

若手研究者が提案・実施する研究イベントにおける研究発表に対して、これを提案・実施した若手研究者をゲストエディタとする DBSJ 論文誌特集号の発行について、論文誌委員会と連携し検討した。2024 年度より論文誌特集号の編集・発行が可能であることを若手オーガナイザに案内したが、希望が無かったため実施は見送られた。

(3) 若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動の検討

WebDB 夏のワークショップや DEIM フォーラム等において、若手が励みになるような若手研究者向けの賞を検討するなど、若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動について検討した。具体的な実施案の策定には至っておらず、今後も検討を継続する。

(4) 若手活性化事業の広報および若手の要望を抽出するための Web サイト構築

本委員会の活動を広報するための Web サイトを DBSJ の Web サイトの中に立ち上げた。https://dbsj.org/activating_young_people/

6. 実施事業3：会員交流（定款第4条第1項8号）

担当：会員交流委員会

本事業の目的は、DBコミュニティの学生を含む若手研究者の交流を促進するための機会を提供するものである。DBコミュニティに関連する学術イベント等において、会員同士が交流出来る場を提供し、特に若手研究者同士の交流を促進することで本コミュニティの活性化に寄与することを目指す。

【活動概要】

（1） WebDB 夏のワークショップにおける懇親会および交流会の開催サポート

研究発表セッション終了後に実施した懇親会に学生参加者が参加しやすいよう、学生に対する参加費サポートを行った（懇親会会費6千円のところ、1名あたり4千円を補助、30名分合計12万円）。また、懇親会終了後のナイトセッション（交流会）においても、開催サポートを行った。

（2） DEIM オンサイト企画 BoF におけるケータリングのサポート

毎年更新される組織委員による運営を DBSJ がバックアップすることで、DEIM フォーラムにおける会員交流イベントの継続的・安定的な実施をサポートした。本件は、DEIM 内で実施するイベント企画であるためイベント委員会とも連携しながらサポートを行った。

（3） 会員交流促進に関する方策の継続的な検討

本学会における会員交流の促進は重要な課題である。そこで上記の活動に限らず、継続的に会員交流促進に関する方策の検討を行っている。なお、この検討は当委員会メンバー内の議論に閉じることなく、交流会の場などでも問題意識を共有することで、多くの学会会員に当事者意識を持ってもらい、今後も学会全体で検討していく。

（4） 会員交流事業の広報のための Web サイト構築

本委員会の活動を広報するための Web サイトを DBSJ の Web サイトの中に立ち上げた。
(https://dbsj.org/member_interaction/)

7. 実施事業4：イベント・国際連携・学会連携（定款第4第1項1号）

担当：イベント委員会・国際連携委員会・学会連携委員会

本事業の目的は、DB コミュニティのメンバー間の情報交換・情報共有を促進するため、様々な形態のイベントの企画、海外のDB コミュニティとの連携、および他学会との連携を図ることである。国内のDB コミュニティの活性化及び拡大化のためのイベントとしては、DEIM, SoC, WebDB 夏のワークショップを企画・運営する。国際連携では、ACM との連携(SIGMOD-J)、および日本と韓国(KJDB)、中国、タイ間のDB コミュニティとの連携を深める。学会連携ではDBSJ と各学会のDB 系研究会との連携を深める。

【活動概要】

（イベント）

（1）データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム（DEIM）

開催日時：2月27日（木）～3月1日（土） オンライン：口頭発表

3月3日（月）～3月4日（火） オンサイト

開催場所：ZoomEvents（オンライン会場）、福岡国際会議場（オンサイト会場）

論文発表 429 件

インタラクティブ発表 386 件（内デモ 46 件）

スポンサー数：24 社

プラチナ：7 社（新規 1 件）

ゴールド 15 社（新規 3 件）

シルバー：2 社（新規 1 件）

維持会員 13 社、非維持会員 11 社

参加者数： 840 名

（2）ソーシャルコンピューティングシンポジウム（SoC）

開催日時：2024 年 6 月 22 日（土）10:30-17:15

開催場所：リクルート（本社）（ハイブリッド開催）

東京都千代田区丸の内 1-9-2 グラントウキョウサウスタワー

参加者数：61 名（オンライン 16 名）

（3）WebDB 夏のワークショップ

WebDB 夏のワークショップ 2024 (情報処理学会 第 179 回 データベース システム研究会・情報処理学会 第 156 回 情報基礎とアクセス技術研究会・電子情報通信学会 データ工学研究会 合同研究会)

開催日時： 2024 年 9 月 11 日（木） 13:00～17:15, 9 月 12 日（金） 9:00～16:30

開催場所： 淡路夢舞台国際会議場（3 階会議室 301, 311）

参加人数： 88 名

発表件数： 41 件（DBS：29 件，IFAT：4 件，DE：8 件）

（国際連携）

（1）ACM：SIGMOD-J

ICDE2024 & VLDB2024 国際会議報告を実施した。

開催日時：2024 年 9 月 17 日（土）

開催場所：オンライン（Zoom）

参加者数：30 名

（2）韓国：Korea-Japan (Japan-Korea) Database Workshop（KJDB）

開催日時：2024 年 11 月 15 日（金）～17 日（日）

開催場所：WANGYIJIMIL、全州（韓国）

参加者数：54 名（日本側は現地参加 18 名、リモート参加 4 名）

（3）中国

CCF TCDB（中国计算机学会数据库专业委员会）メンバーが DEIM2025（福岡）を訪問し，Aoying Zhou 教授（中国華東師範大学）による招待講演，および交流会を開催した。

（4）タイ

タイの DB コミュニティとの連携について，具体的な連携イベントを検討中である。

8. 実施事業 5：最強データベース講義（定款第 4 第 1 項 1 号及び 7 号）

担当：DBSJ 講義委員会

本事業の目的は，DB 関連分野の各項目について，その道の第一人者ならではの「面白く」「わかりやすい」講義コンテンツを提供し，大学の枠を超えた最強のデータベース講義コンテンツライブラリを構築する事である。

【活動概要】

これまでの本事業の経験および DB シラバス関連調査事業の結果を踏まえ下記を実施。

(1) 講義コンテンツの作成と配信

- (a) 最強データベース講義：大学院生，エンジニア，研究者を対象とした講義
- (b) 最強データベース講義ベーシック：初学者（学部生）を対象とした講義
- (c) 最強データベース教材：教員や企業での教育担当者を対象とした講義

(2) 講義コンテンツ活用に向けた広報や調査

(3) タグ付けや講義間の関係などの整備と公開

(4) 講義コンテンツの LLM 学習や RAG 等への利用を想定したデータセット整備

(5) コンテンツを利用した勉強会等派生イベント，他の活動(DEIM 等)への接続性の検討

【今年度の実績】

6 月 5 日 #33 プライバシー保護した連合学習（曹洋先生）

申込者数 79 名（学生 5、一般 74）

8 月 7 日 #34 データストレージの歴史（合田和生先生）

申込者数 107 名（学生 1、一般 106）

11 月 27 日 #35 大規模言語モデルに基づく検索モデル（加藤誠先生）

申込者数 134 名（学生 10、一般 124）

4 月 23 日 #36 2025 年現在の NewSQL（小林隆浩氏）

申込者数 412 名（学生 10 名、一般 402）

- connpass グループ登録者数(2024 年 3 月 23 日現在)：2158 名

- Youtube チャンネル登録者数(2024 年 3 月 23 日現在)：8850 名

9. 実施事業 6：データ作法(セミナー等)（定款第 4 第 I 項 1 号及び 5 号）

担当：セミナー委員会

本事業の目的は，セミナーを通じて，研究者や技術者がデータを利活用する際に必要となる法的な課題や倫理的な課題を熟知し，法的に問題とならないデータを利活用した研究開発の推進を支援することである。

【活動概要】

「私達は法に準拠してデータをどうやって集めてどのように使えばよいのか？」という研究者や技術者の疑問を解消するためのセミナーを 2019 年度から著作権法や個人情報保護

法，AI や医学系研究の倫理等に関する課題などを対象として開催してきた。このような法律に関わる課題に取り組むため，法律の専門家による法的な課題の講演に加えて，企業などからの実践的な課題に対する講演，さらには参加者を交えた深掘りの議論をするためのパネルディスカッションで構成されるセミナーとして企画・開催している。2024 年度はセミナー委員会では Slack を用いた議論を行い，「生成 AI の研究・開発への利活用」をテーマとしたセミナーを計画し，以下のように開催した。なお，第 2 回 DBSJ セミナーは DEIM2025 のチュートリアル枠で実施し，ハイブリッド開催とした。

2024 年 12 月 21 日(土) 13:00 – 17:00

第 1 回 DBSJ セミナー「生成 AI の安全性における法的課題や活動事例」

講演 1：AI の安全性に関する議論と取り組み

株式会社 ABEJA 弁護士

古川直裕

講演 2：AI 社会の安全確保に向けた取り組み

AI セーフティ・インスティテュート 副所長・事務局長

独立行政法人情報処理推進機構(IPA) デジタル基盤センター長

平本健二

講演 3：IBM における AI ガバナンスへの取り組み

日本アイ・ビー・エム株式会社 テクノロジー事業本部

データ・AI・オートメーション事業部 プロダクトマネージャー

小山政宣

パネルディスカッション モデレーター 横田治夫(DBSJ 会長)

古川直裕，平本健二，小山政宣，柿沼太一(弁護士法人 STORIA，DBSJ 理事)

聴講者 約 65 名

2025 年 3 月 3 日(月) 10:00 – 14:30

第 2 回 DBSJ セミナー「AI の研究開発への活用について - 生成 AI を活用した研究やビジネスにおける法的課題や活動事例最前線 - 」

講演 1：3D 生成モデル研究事例と研究活動における AI 活用事例の紹介

大阪大学 D3 センター サイバーメディア教育研究部門 准教授

千葉直也

講演 2：独自 LLM 開発の実際と企業内での実践について

株式会社リコー AI インテグレーションセンタ 所長

梅津良昭

講演 3：研究開発における AI 利用と法的課題

STORIA 法律事務所パートナー弁護士，DBSJ 理事

柿沼太一

パネルディスカッション：モデレータ 横田治夫(DBSJ 会長)

千葉直也, 柿沼太一, 松村優也(株式会社 LayerX)

聴講者：約 200 名(会場, 午前午後延べ人数), 約 90 名(オンライン, 午前午後延べ人数)

10. 実施事業7：学生企画（定款第4第1項3号）

担当：企画委員会

本事業の目的は、本学会に関わる学生の成長を促すことを第一義とし、学生自身が活躍できる機会を提供するものである。学生自身が関心を寄せるトピックを中心に、学生が主体的かつ能動的にイベント等の企画ならびに運営ができるよう、DBSJ として支援する。

【活動概要】

2024 年 6 月～7 月に学生企画の運営委員会を発足させ、8 月より企画の検討を開催、下記 2 件のイベント企画開催のサポートを実施した。

(1) DBSJ 学生企画第 14 弾（Zoom 配信企画）

- 日時：2025 年 1 月 22 日（水） 18:00-19:00
- 講師：LayerX 松村優也氏
- 講演タイトル：LLM 活用の現在とこれから
- 概要：近年注目が集まる大規模言語モデル（LLM）に対する LayerX での取り組み、特に実際のプロダクトにおける LLM の活用についてご講演いただいた。あわせて、学部生や専門でない方向けに LLM の基礎・概要についてもお話いただいた。
- 参加者：45 名

(2) DBSJ 学生企画第 15 弾（産学連携委員会との合同企画）

- タイトル：DB 談話室 ～研究者としての生活の「リアル」～
- 日時：2025 年 3 月 3 日（月） 17:10～18:40
- 開催形態：オンライン（DEIM2025 会場）でのパネルディスカッション
- モデレータ：吉丸直希さん（同志社大）他学生企画の皆さん
- パネリスト：上野 史先生（岡山大学）、SHE XINYI 様（日立製作所）、山本 祐輔先生（名古屋市立大学）、佐々木 佑樹様（富士通）、榎 美紀様（日本 IBM）、渡辺 知恵美先生（筑波技術大学）、横山 昌平先生（東京都立大学）

- 参加人数：96 名
- URL: <https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/deim2025/content/bof>

1 1. 実施事業 8：産学連携推進（定款第 4 第 1 項 3 号）

担当：産学連携委員会

本事業の目的は、アカデミアとインダストリアルの間、さらにはインダストリアルとインダストリアルの間における技術的な情報の共有、人的な交流を促進することで、データ工学に関連する産業全体の発展を目指すことにある。本年度も引き続きインダストリアルからプロダクトやデータ、あるいはアカデミアにおける研究テーマになりうるような課題を提供し、それらを活用頂くためのプログラムやイベントを開催、それらの場を通じた交流を図る。

【活動概要】

(1) プロダクト提供型アカデミック支援プログラム

下記プロダクト活用を通じた研究を支援すると共に、研究を通じて人的交流も図る。

- ・東芝デジタルソリューションズ：GridDB Enterprise Edition

→ 3 件の利用申請があり、それぞれを承認、研究に活用いただいた

(2) データ提供型アカデミック支援プログラム（IDR ユーザフォーラム）

DBSJ 維持会員企業ならびに国立情報学研究所 情報学研究データリポジトリ（以下、IDR）に参画している企業より希望者に対しデータを提供し、実データを使った研究を支援するプログラムであり、本年度は、2024 年 12 月 13 日（金）に一橋講堂にて開催された。

(<https://www.nii.ac.jp/dsc/idr/userforum/2024.html>)

発表件数は、ポスターセッション 32 件、スタートアップセッション 20 件、データ提供者からの発表 22 件、および前年度の受賞者からの口頭発表 2 件であり、参加者数は 146 名（現地参加）+48 名（オンライン参加）と盛況であった。

下記の発表に対し、DBSJ 特別賞を授与し、DEIM2025 への招待を行った。

- ・安田大輝氏（東京科学大学 工学院 経営工学系）

・タイトル：アスペクト情報を活用した知識グラフ上のパス推論による説明可能なホテル推薦システム

- ・ポスター原稿：https://www.nii.ac.jp/dsc/idr/userforum/poster/IDR-UF2024_P06.pdf

なお、安田氏は、DEIM2025 の研究発表においても高く評価され、企業賞を受賞されており、優秀な研究を行っている学生、その指導をされている先生を DBSJ のコミュニティに引き込むことができた。

(3) 産学連携マッチング促進のための取り組み

産学連携マッチングの促進を目的として、SoC2024 にて下記のパネルディスカッションを開催した。

- 開催日：2024 年 6 月 22 日
- セッション名：「産学連携トークセッション ～ “産”のホンネ × “学”のホンネ」
- 実施形態：パネルディスカッション
- モデレータ：櫻井一貴氏(リクルート)
- パネリスト：灘本明代先生（甲南大）、金政泰彦氏（富士通株式会社）、塩川浩昭先生（筑波大）
- トピック：産学連携の様々なトピックの中でも、「就職活動」にフォーカス
 - 『産→学』 企業が求めている人材／入社後の研究事情／博士号の意義
 - 『学→産』 就職先として魅力的な企業／企業の学生へのアプローチの仕方／学が考える「優秀な学生」

また、学生企画（企画委員会）と合同で、研究者のワークライフバランスに関するパネルディスカッションを企画し、DEIM2025 にて開催した。詳細は、企画委員会の事業報告欄に記載。

(4) DBSJ 維持会員新規特典に関する取り組み

DBSJ 維持会員新規特典として、「維持会員企業 - DBSJ コミュニティ間のマッチングサービス（仮）」を企画し、DEIM2025 にて試行した。

- 背景：DBSJ 関連企業意見交換会において、維持会員の企業様が、DBSJ コミュニティへのアプローチに課題を抱えているという声が上がっていた。
- 目的：DEIM2025 では、DBSJ コミュニティに属する多くの先生方がいらっしゃるため、維持会員企業と先生方の接点を創出する。

結果、DEIM2025 オンサイト会期中にて、新規に DBSJ 維持会員になっていただいた企業様 2 社様と活発な議論を実施。データ提供型産学連携プログラムなどの紹介を行った。

1 2. 実施事業 9：情報システム（定款第 4 第 1 項 6 号）

担当：情報システム委員会

本事業の目的は、会員データベースシステム、会員メーリングリスト dbjapan 等の情報システムに加えて、本会ホームページ、本会 Facebook などの電子広報用のシステムやサービスの安定運用と維持管理を行い、本会の運営をサポートすることである。

【活動概要】

(1) Web・会員 DB の運用・維持

本会 Web ページや会員データベースシステムについて安定した運用と維持管理を実施した。

1 3. 実施事業 10：広報（定款第 4 第 1 項 2 号）

担当：広報委員会

本事業の目的は、国内外の DB 関連技術の研究動向および DB コミュニティの活動動向を電子的に広報することである。

【活動概要】

(1) News Letter の刊行

2024 年度は以下の News Letter を発行した。News Letter は従来のメール配信だけでなく、本会の Web ページでも、Web ページの体裁に合わせた形式で写真付きの著者紹介付きで掲載するようにした。

- ・ 4 月 1 日：DBSJ Newsletter 2024 年 4 月号（Vol. 17, No. 1）発行
（DEIM2024 開催報告, AAAI2024, IEEE BigComp 2024, EMNLP2023 参加報告）
- ・ 5 月 2 日：DBSJ Newsletter 2024 年 5 月号（Vol. 17, No. 2）発行
（日本データベース学会受賞特集号）
- ・ 6 月 1 日：DBSJ Newsletter 2024 年 6 月号（Vol. 17, No. 3）発行
（ICDE 2024, PAKDD 2024 参加報告）
- ・ 8 月 1 日：DBSJ Newsletter 2024 年 8 月号（Vol. 17, No. 4）発行
（DASFAA 2024 開催報告, DASFAA 2024, SIGMOD 2024, WWW 2024 参加報告）
- ・ 10 月 1 日：DBSJ Newsletter 2024 年 10 月号（Vol. 17, No. 5）発行
（ICML 2024, KDD 2024, ECML PKDD 2024 参加報告）

- ・ 11 月 1 日：DBSJ Newsletter 2024 年 11 月号 (Vol. 17, No. 6) 発行
(若手研究者対談企画号)
- ・ 12 月 1 日：DBSJ Newsletter 2024 年 12 月号 (Vol.17, No. 7) 発行
(ACM RecSys 2024, ACM CIKM 2024, ACM Multimedia 2024, EMNLP 2024 参加報告)
- ・ 2 月 1 日：DBSJ Newsletter 2025 年 2 月号 (Vol.17, No. 8) 発行
(VLDB 2024, ICDM 2024, ICADL 2024 参加報告)

1 4．実施事業 1 1：論文誌編集（定款第 4 第 1 項 2 号）

担当：論文誌編集委員会

本事業の目的は、論文誌の発行を通じて、データベース、メディアコンテンツ、情報マネジメント、ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興を図り、もって学術、文化、ならびに産業の発展に寄与するという本学会の目的に貢献することである。

【活動概要】

日本データベース学会論文誌（和文・英文）および論文誌「データドリブンスタディーズ」を発行した。

(1) 日本データベース学会論文誌（和文・英文）の発行

(ア) 自由投稿論文を対象

(イ) 和文論文誌 (Vol. 23-J) の発行

和文論文誌に論文 3 編を採録した。今年度は英文誌の発行はなかった。

(2) 論文誌「データドリブンスタディーズ」の発行

(ア) Vol. 3 の発行

論文 6 編を採録した。

(3) 論文誌に関する課題について検討

1 5．実施事業 1 2：表彰（定款第 4 第 1 項 8 号）

担当：表彰委員会

本事業では、功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。

【活動概要】

1. dbjapan において、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞に関する推薦依頼を行った。
2. 表彰委員会を立ち上げ各賞の選定を行い、DEIM 2025 にて表彰式を開催した（2025 年 3 月 4 日）。

今年度の受賞者は以下の通り。

功労賞	飯沢 篤志 氏
若手功績賞	山口 晃広 氏
	松原 正樹 氏
	劉 健全 氏
	北島 信哉 氏
	榎 美紀 氏
	吉田 光男 氏
上林奨励賞	高木 駿 氏
	小幡 紘平 氏

16. 実施事業 13：ハラスメント防止・D&I 推進（定款第 4 第 1 項 4 号及び 8 号）

担当：ハラスメント防止・D&I 推進委員会

本事業の目的は、DBSJ 内のダイバーシティ&インクルージョンを推進し、ハラスメントを防止するための活動を通して、DBSJ に関わる全ての人の基本的人権および尊厳を守り、各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることである。

【活動概要】

ダイバーシティ&インクルージョン推進のためのセミナーやパネルディスカッションを通じた啓蒙活動、さらに DEIM を中心とした学会におけるハラスメント防止などの活動を実施した。

- (1) D&I 推進事業（男女共同参画学協会連絡会への対応を含む）

主催イベント：SoC2024 にて合理的配慮の提供に関する招待講演を開催

共生社会を促進する「誰でも参加」の学会を作ろう - 障害・ICF・合理的配慮・研究におけるアクセシビリティガイドライン -

講演者：布川清彦教授（東京国際大学）

- (2) ハラスメント防止委員会

DEIM 等の主催・共催・講演イベントでのハラスメント防止活動

[第 1 号議案]

1-2. 2024 年度決算書（決議事項）

1. 貸借対照表
2. 正味財産増減計算書
3. 財務諸表における注記
4. 附属明細書
5. 財産目録

1. 貸借対照表

貸 借 対 照 表

2025年3月31現在

一般社団法人日本データベース学会
(単位：円)

科 目		当 年 度	前 年 度	増 減
Ⅰ 資 産 の 部				
1	流 動 資 産			
	現 金 預 金	60,741,115	56,209,715	4,531,400
	未 収 入 金	38,500	840,915	△802,415
	立 替 金	3,000,000	2,000,000	1,000,000
	流 動 資 産 合 計	63,779,615	59,050,630	4,728,985
2	固 定 資 産			
	ソ フ ト ウ ェ ア	1,897,500	2,403,500	△506,000
	固 定 資 産 合 計	1,897,500	2,403,500	△506,000
	資 産 合 計	65,677,115	61,454,130	4,222,985
Ⅱ 負 債 の 部				
1	流 動 負 産			
	未 払 金	1,414,013	482,130	931,883
	未 払 費 用	118,850	189,510	△70,660
	前 受 金	87,000	63,000	24,000
	預 り 金	52,454	112,046	△59,592
	流 動 負 債 合 計	1,672,317	846,686	825,631
2	固 定 負 債			
	固 定 負 債 合 計	0	0	0
	負 債 合 計	1,672,317	846,686	825,631
Ⅲ 正 味 財 産 の 部				
1	指 定 正 味 財 産	0	0	0
2	一 般 正 味 財 産	64,004,798	60,607,444	3,397,354
	正 味 財 産 合 計	64,004,798	60,607,444	3,397,354
	負 債 お よ び 正 味 財 産 合 計	65,677,115	61,454,130	4,222,985

2. 正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

一般社団法人日本データベース学会

令和6年4月1日～令和7年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
論文収入	500,500	354,500	146,000
2023年度論文収入	115,500		
2024年度論文収入	385,000		
受取会費	4,526,000	5,305,000	△ 779,000
維持会員費受取金	4,250,000	5,200,000	△ 950,000
正会員受取会費	276,000	105,000	171,000
参加費・寄付金	16,993,800	14,390,800	2,603,000
DEIM参加費・論文投稿費	10,183,800	9,490,800	693,000
DEIM協賛金	5,810,000	4,900,000	910,000
受取寄付	1,000,000	0	1,000,000
受託研究	0	0	0
基本財運用収入	34,266	554	33,712
雑収益	354,497	0	354,497
雑損失	△ 480,400		
経常収益計	21,928,663	20,050,854	1,877,809
(2) 経常費用			
事業費	10,932,301	11,836,256	△ 903,955
給料手当	462,808	425,283	37,525
福利厚生費	0	0	0
業務委託費	0	0	0
謝金	328,644	477,963	△ 149,319
印刷製本費	0	9,680	△ 9,680
会議費	8,076,088	8,189,071	△ 112,983
旅費・交通費	336,950	390,067	△ 53,117
交際費	574,293	647,503	△ 73,210
通信運搬費	644,995	1,255,071	△ 610,076
消耗品費	52,325	94,107	△ 41,782
支払手数料	365,448	347,511	17,937
衛生費	0	0	0
広告宣伝費	90,750	0	90,750
管理費	7,529,008	6,567,378	961,630
給料手当	1,083,918	1,053,000	30,918
業務委託費	2,640,000	2,640,000	0
会議費	23,375	22,110	1,265
交際費	94,675	5,500	89,175
旅費・交通費	9,040	35,740	△ 26,700
通信運搬費	976,852	464,138	512,714
消耗品費	20,207	151,906	△ 131,699
修繕費	0	330,000	△ 330,000
地代家賃	18,480	13,750	4,730
租税公課	489,547	21,284	468,263
支払手数料	21,714	40,920	△ 19,206
支払寄付金	15,000	10,000	5,000
広告宣伝費	396,000	396,000	0
雑費	0	0	0
支払報酬	1,234,200	1,132,450	101,750
減価償却費	506,000	250,580	255,420
経常費用計	18,461,309	18,403,634	57,675
当期経常増減額	3,467,354	1,647,220	1,820,134

2.経常外増減の部			
(1)経常外収益		0	0
固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
固定資産売却（除却）損	0	0	0
前期損益修正損	0	10,000	△ 10,000
経常外費用計	0	10,000	△ 10,000
当期経常外増減額	0	△ 10,000	10,000
税引前当期一般正味財産増減額	3,467,354	1,637,220	△ 5,655,045
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	3,397,354	1,567,220	1,830,134
一般正味財産期首残高	60,607,444	59,040,224	1,567,220
一般正味財産期末残高	64,004,798	60,607,444	3,397,354
II 指定正味財産増減の部			
(1)収益	0	0	0
収益計	0	0	0
(2)費用	0	0	0
費用計	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	64,004,798	60,607,444	3,397,354

3. 財務諸表における注記

3-1. 重要な会計方針

(1) 会計基準

財務諸表は、公益法人会計基準に則って報告しています。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準および評価方法は先入先出し法による原価法によります。

(3) 固定資産の減価償却方法

固定資産の減価償却は法人税法で定める定額法によります。なお、取得価格が30万円未満のものについては費用処理しています。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込み方式によっています。

3-2. 特定資産財源の増減額および残高

特定資産に該当する資産がないため、計上しておりません。

3-3. 補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額及び残高

補助金に該当するものがなかったため、計上しておりません。

以上

4. 附属明細書

4-1. 特定資産の明細

特定資産に該当するものがないため、記載しません。

5. 財産目録

財産目録

(2025 年3月31日現在)

(単位：円)

貸借対照表科目		場所	使用目的	金額
流動資産	現金預金			
	現金	手許保管	運転資金に充てるもの	33,277
	預金	三井住友銀行 小石川支店	運転資金に充てるもの	39,145,537
		三井住友銀行 小石川支店	国際会議基金	11,315,134
		三井住友銀行 小石川支店	事業積立金	10,247,167
			(普通預金口座計)	60,707,838
			(現金預金口座計)	60,741,115
	未収入金	ロボットペイメント	DEIM2025参加費・論文投稿料	38,500
	立替金	DASFFA	立替金	3,000,000
流動資産合計				63,779,615
固定資産	有形固定資産			
	無形固定資産			
		横山電算機	新規会員データベース構築・改修	1,897,500
固定資産合計				1,897,500
資産合計				65,677,115
流動負債	未払金	千代田都民税事務所	法人都民税	70,000
		Adobe	事務局Adobe月額利用料	1,848
		Slack利用料	DEIM運営委員連絡用ツール（5か月分）	174,074
		Amazon	DEIM2025物資調達	36,925
		福岡第一交通株式会社	DEIM2025機材持ち込み用タクシー	7,650
		日本郵便株式会社など	DEIM2025パンフレット郵送費	3,238
		株式会社丸洋フーズ	DEIM2025における会員交流会食費	95,640
		株式会社ロボットペイメント	DEIM2025参加費システム手数料3月分	1,843
		Zoom	DEIM2025 Zoomイベント人数超過料金など	55,705
		アスクル株式会社	DEIM2025会場で利用する名刺など消耗品	14,190
		小石川税務署	2023年度消費税納付	480,400
			2024年度消費税納付	472,500
		三井倉庫など	給料手当・家賃など	118,850
	未払費用	会員	2025年度DBSJ年会費へ充当	87,000
	前受金	小石川税務署	源泉徴収	52,454
	預り金			
流動負債合計				1,672,317
負債合計				1,672,317
正味財産合計				64,004,798

[第 1 号議案]

1-3. 監査報告書

2025 年 5 月 17 日

一般社団法人 日本データベース学会
代表理事 横田 治夫殿 藤原 真二殿

監事 中野美由紀
監事 山名早人

私たち監事は、一般法人法第 99 条第 1 項及び一般社団法人日本データベース学会定款第 25 条第 1 項の規定に基づく監査報告を行うため、一般社団法人日本データベース学会の 2024 年度（2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日）の事業報告、計算書類、これらの附属明細書、その他理事の職務執行の監査を実施いたしました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各幹事は理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報収集及び監査の環境の整備に努めると共に、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からもその職務の執行状況について、必要に応じて説明を求め、重要な方決裁書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法にもとづき、当該事業年度に係る事業報告書及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 当法人の業務の適性を確保するために必要な体制の整備等について理事会の決議の内容は相当です。
- (4) 計算書類及び附属明細書並びに財産目録等は当法人の財産及び損益の状態を全ての重要な点において適性に表示しているものと認めます。

以上

[第 2 号議案]

2. 2025 年度に係る計画等

2-1. 2025 年度事業計画書

2-2. 2025 年度予算計画書

[第 2 号議案]

2-1. 2025 年度事業計画書

1. 概況
2. 会員数について
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業 1： 一般社団法人としての運営
5. 実施事業 2： 若手活性化
6. 実施事業 3： 会員交流
7. 実施事業 4： イベント・国際連携・学会連携
8. 実施事業 5： 最強データベース講義
9. 実施事業 6： データ作法（セミナー等）
10. 実施事業 7： 学生企画
11. 実施事業 8： 産学連携推進
12. 実施事業 9： 情報システム
13. 実施事業 10： 広報
14. 実施事業 11： 論文誌編集
15. 実施事業 12： 表彰
16. 実施事業 13： ハラスメント防止・DE&I 推進

2025 年度事業計画書

1. 概況

当法人は、前身である任意団体日本データベース学会の事業を切れ目なく引き継ぐと共に、定款第3条に定める「データ、データベースならびにデータ高度応用・システムを主軸とした科学・技術の振興と人材の育成を図り、国内外のデータベース関連学術団体と連携しつつ、フットワーク軽く、産学連携、国際的協調、新領域開拓を先導し、学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与すること」を目的として活動を進める。

2025 年度は、一般社団法人日本データベース学会としての事業を行う 5 年目となる。2021 年度には各種規程を制定し、一般社団法人としての活動を開始した。2022 年度には役員を改選し会長が交代したのに伴い、委員会構成を整理し、新しい体制で学会活動を実施した。2023 年度は、より良い活動を目指して必要な制度改正、内規の整備を行い、さらなる学会発展を目指す方向性、活動について議論した。2024 年度は役員改選を行い、委員会体制を刷新し、新たな活動として若手活性化、会員交流に焦点をあて事業を推進した。2025 年度は、2024 年度の委員会体制は維持しつつ、それぞれの活動を改善しながら、活発に推進する。これにより、本会の目的にそって定款第4条第1項に定める事業を滞りなく行っていく。

具体的には、下記に示す重点活動項目の活動を通じて学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与する。

2. 会員数について

2021 年度の定時総会までに、前身である任意団体日本データベース学会の全会員に対し移行意志の確認を進め、移行意志を確認できた者を定時総会が開催された時点での会員とした。その後、正会員、学生会員、維持会員ともに順調に増加している。それに加えて、2021 年度より DEIM の参加者は DBSJ 会員となることのできる特典を享受できるようにしたことにより、正会員数が 2022 年度は 822 名、2023 年度は 895 名、2024 年度は 944 名と会員が増加した。

2023 年度定時総会で定款を改定し、正会員を第一種と第二種に分割し、従来のフルアクセス権付正会員を第一種、フルアクセス権なし正会員を第二種に移行した。従来 DBS 研、DE 研登録者はフルアクセス権付だったが、その特典を無くし、第一種正会員は年会

費を支払うこととした。ただし、DEIM 参加者は翌年度の年会費を免除する。これにより、その年度の年会費を支払ったか、前年度の DEIM に参加した正会員が第一種正会員となる。2024 年 4 月に DEIM2024 参加者から第一種正会員、学生会員への登録作業を行った。2024 年 7 月に、DEIM2024 に参加せず、2024 年度の年会費を支払わなかった第一種正会員 68 名を第二種正会員に変更した。

2025 年 2 月 27 日から開催された DEIM2025 では、会員価格で参加する条件として、事前に会員となることを徹底したため、参加申し込み前の入会が増加した。

名誉会員は、2024 年 3 月に 15 名任命した後、2025 年 1 月に 1 名任命した。

維持会員は、2024 年度総会後に 2 社入会したが、1 社退会した。

以下に、2021 年度から 2024 年度まで各年度の総会時点と 2024 年度末（2025 年 3 月末）時点での会員数を示す。

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度総会	2025 年 3 月末
正会員	484 名	822 名	895 名	944 名	1013 名
第一種				419 名	365 名
第二種				525 名	648 名
名誉会員				15 名	16 名
学生会員	74 名	503 名	750 名	989 名	1198 名
維持会員	21 社	26 社	26 社	24 社	25 社

今後も DEIM 参加者が DBSJ 会員となることのできる特典を継続するとともに、セミナーやフォーラムの機会を通じて、会員増加に努めていく。

3. 会議等に関する事項

下記の会議を計画する。遠隔会議システム等を利用し効率的な運用に努める。

3.1 2025 年度 定時総会

2025 年 6 月 21 日(土)に開催する。

3.2 理事会および各種委員会

理事会および各種委員会はオンライン開催を基本とするが、必要に応じてリアル会場を交えたハイブリッド開催を行う。

理事会は年度内に 6 回以上開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。

各種委員会は必要に応じて開催し、諸活動における諸事項を審議する。

4. 実施事業 1：一般社団法人としての運営（定款第 4 条第 1 項 8 号）

担当：総務委員会・財務委員会

総務委員会および財務委員会は、一般社団法人日本データベース学会の運営を円滑に進めることを目的に活動している。日常業務を効率よく推進すると同時に、よりよくするために継続的に改善している。

活動概要では、今年度の改善項目を挙げている。

【活動概要】

4.1 会員・会費制度の継続的見直し

2023 年度に改正した会員・会費制度に則った会員運営並びに会費徴収を遂行するとともに、継続的な見直しを実施する。

名誉会員の内規を見直し、DBSJ 初期に活躍・貢献されて、現在は退会されている方について、名誉会員として推薦する方法を検討し、実施する。

4.2 委員会や組織の構成の継続的見直し

定款第 4 条に示す本会が推進すべき事業を円滑に進めるため、委員会や組織の構成を随時見直し、期中であっても柔軟に対応できるよう、必要に応じて委員会や組織の構成を変更していく。その対応をするための予算を計上する

4.3 DBSJ 主催による各種活動の支援

DBSJ 主催イベントを活性化するため、DEIM 等の DBSJ 主催の各種イベントの開催における一部経費を支援する。

4.4 事務局業務の円滑な遂行

事務局業務を円滑に遂行するため、事務局業務の一部委託を継続する。

また、専門的な知識が必要となる課題を解決するため、必要に応じて専門家への業務委託を実施する。

4.5 理事交代方法改善の検討

2026 年度の役員改選に向けて、2026 年 4 月に予定されている役員選挙の準備として、2025 年度中に役員候補者を確定する。役員候補者を検討する際に、以前から課題であった理事交代の方法を改善することで実施事業の継続性担保を検討する。

4.6 代議員選挙・役員選挙の実施プロセス改善

候補者の推薦・確定，選挙人の確定において，手続き上の曖昧さが残っていること，情報確認不足により，選挙を開始してから，やり直すことがこれまで何度かあった．2026 年度の代議員選挙，役員選挙の準備が始まる 10 月以前に，手続きを見直し，内規として制定することで，今年度は選挙が確実に実施されることを目指す．

4.7 会計業務の継続的見直し

一般社団法人日本データベース学会は，2023 年度に消費税課税業者となった．さらに，2023 年 10 月からはインボイス制度，2024 年 1 月 1 日からは電子帳簿保存法が施行されたため，外部の税理士法人による定期的な内部会計監査などを実施してきた．今年度も必要に応じて会計業務の継続的な見直しを実施する．

4.8 本会活動の継続的検討

一般社団法人日本データベース学会として，本会の活動全体を定款第 4 条第 1 項の各号の内容にそって，継続的に見直しを進めていく．

5. 実施事業 2：若手活性化（定款第 4 条第 1 項 8 号）

担当：若手活性化委員会

本事業の目的は，本学会の未来を担う若手研究者の活動を活性化させるための機会を提供するものである．若手研究者が主体的に行う研究活動の事務的・金銭的支援や，若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動を DBSJ として実施する．

【活動概要】

(5) 若手研究者がオーガナイズするワークショップ(もしくは招待セッション)開催支援
毎年 9 月に開催する WebDB 夏のワークショップ等において，若手研究者によるワークショップ企画もしくはオーガナイズドセッションを募集すると共に開催支援を行う．具体的には，招待講演者招聘費用等の金銭的サポートを行うと共に，会場手配等の事務手続きを本委員会がサポートする．本活動により，若手研究者の負担を軽減しつつ，若手研究者の研究活動活性化に寄与することを目指す．ただし，あくまで若手研究者が自ら提案するプロポーザルのみを対象とし，提案することそのものが若手研究者の負担とならぬよう最大限配慮する．

(6) 若手オーガナイズド研究イベントの研究業績(ジャーナル)化支援

若手研究者が提案・実施する研究イベントを開催した際に，これを提案・実施した若手

研究者をゲストエディタとする DBSJ 論文誌特集号の発行を論文誌委員会とも連携しながら支援する。

(7) 若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動の検討

WebDB 夏のワークショップや DEIM フォーラム等において、若手が励みになるような若手研究者向けの賞を検討するなど、若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動について、表彰委員会とも連携しながら検討する。

(8) 若手活性化事業の広報および若手の要望を抽出するための Web ページの充実化

DBSJ の Web サイトの中に既に立ち上げている、本委員会の活動を広報するための Web ページの充実化を図る。ここでは若手オーガナイズド研究イベントの実施状況や公募情報を掲載すると共に、若手が気軽に提案できるような Web サイト運営について検討する。

6. 実施事業3：会員交流（定款第4条第1項8号）

担当：会員交流委員会

本事業の目的は、DB コミュニティの学生を含む若手研究者の交流を促進するための機会を提供するものである。DB コミュニティに関連する学術イベント等において、会員同士が交流出来る場を提供し、特に若手研究者同士の交流を促進することで本コミュニティの活性化に寄与することを目指す。

【活動概要】

(1) WebDB 夏のワークショップにおける交流会の開催

研究発表セッション終了後にアルコールの提供を伴う交流会を開催する（アルコールの提供量を制限するなどハラスメント事案にならないよう最大限の注意を払う）。

また、交流会においても、会員交流促進の重要性を参加者に共有し、DBSJ における会員交流の在り方についても意見交換を行う。本件に関しては、DBS 研や DE 研とも連携する必要があることから、学会連携委員会とも連携しながら検討・実施する。

(2) DEIM における会員交流イベントの開催サポート

DEIM オンサイト企画「BoF・ネットワーキング」の開催を DBSJ がバックアップすることで、DEIM における会員交流イベントの継続的・安定的な実施をサポートする。本件は、DEIM 内で実施するイベント企画であるためイベント委員会とも連携しながら

サポート方法について検討する。

(3) 会員交流促進に関する方策の継続的な検討

本学会における会員交流の促進は重要な課題である。そこで上記の活動に限らず、継続的に会員交流促進に関する方策の検討を行う。なお、この検討は当委員会メンバー内の議論に閉じることなく、交流会の場などでも問題意識を共有することで、多くの学会会員に当事者意識を持ってもらい学会全体で検討していく。

7. 実施事業4：イベント・国際連携・学会連携（定款第4第1項1号）

担当：イベント委員会・国際連携委員会・学会連携委員会

本事業の目的は、DB コミュニティのメンバー間の情報交換・情報共有を促進するため、様々な形態のイベントの企画、海外の DB コミュニティとの連携、および他学会との連携を図ることである。国内の DB コミュニティの活性化及び拡大化のためのイベントとしては、DEIM, SoC, WebDB 夏のワークショップを企画・運営する。国際連携では、ACM との連携(SIGMOD-J)、および日本と韓国(KJDB)、中国、タイ間の DB コミュニティとの連携を深める。学会連携では DBSJ と各学会の DB 系研究会との連携を深める。

【活動概要】

(イベント)

(1) データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM)

DEIM2026 も前年度までの形態を引き継ぎ、口頭発表はオンラインにて、その後ポスター発表及、チュートリアル、ネットワーキング(BoF 等)は対面(現地)にて行う直列型ハイブリッドにて開催し、コミュニティの活性化をはかる。開催方法については変更の可能性がある。なお、日程は 2026 年 2 月末～3 月頭を予定し、例年通り DBSJ アワーを開催する。

(2) ソーシャルコンピューティングシンポジウム (SoC)

DBSJ の研究分野の一つとして、ソーシャルメディアを対象とした研究が多数ある。このソーシャルメディアを対象とした研究交流の場として SoC を開催する。開催形態はハイブリッド形式を予定し、日程は 6 月 21 日・22 日の 2 日間、会場は専修大学神田キャンパス（東京都千代田区神田神保町 3-8）を予定している。プログラムとして、2 件程度の招待講演および一般講演（DE 研として開催）を実施し、DBSJ 総会との同時開催を予定している。さらに、産学連携イベントと

してパネルディスカッションの開催も検討する。

(3) WebDB 夏のワークショップ

2022 年度より WebDB 夏のワークショップとして名称変更とともに開催形態を DBS/DE/IFAT 合同研究会形式に変更した会議である。DBSJ が協賛し、9 月に開催する予定である。特に、若手活性化・会員交流についても検討を行う。

(国際連携)

(1) ACM: SIGMOD-J

SIGMOD-J は ACM SIGMOD の日本支部であるが、DBSJ との一体運営を行っている。SIGMOD-J の目的は、海外のトップ Conference に若手研究者を派遣（もしくはオンライン参加）し、そのトピックを DBSJ 会員に対して報告を行うことにより、DBSJ 会員の若手研究者の育成及び DBSJ 会員の最新研究事情の理解である。2025 年度は 3 回の開催（ICDEorWWW, SIGMOD, VLDB）を予定している。

(2) 韓国: Korea-Japan (Japan-Korea) Database Workshop (KJDB)

韓国 DB コミュニティと日本 DB コミュニティとの交流を目的とし、毎年日韓交互にオーガナイザーとなり秋に開催している会議である。2025 年度は日本がオーガナイザーとなり秋頃に開催を予定している。

(3) 中国

MOU の更新に向けた議論を進めるとともに、SoC2025 への参加も検討している。また、DBSJ メンバーの 8 月に長春で開催される NDBC への参加も検討している。

(4) タイ

タイの DB コミュニティとの連携について、具体的な連携イベントの検討および連携を開始する。

8. 実施事業 5：最強データベース講義（定款第 4 第 1 項 1 号および 7 号）

担当：講義委員会

本事業の目的は、DB 関連分野の各項目について、その道の第一人者ならではの「面白く」

「わかりやすい」講義コンテンツを提供し、大学の枠を超えた最強のデータベース講義コンテンツライブラリを構築する事である。

【活動概要】

これまでの本事業の経験および DB シラバス関連調査事業の結果を踏まえ下記を実施。

(6) 講義コンテンツの作成と配信

- (a) 最強データベース講義：大学院生，エンジニア，研究者を対象とした講義
- (b) 最強データベース講義ベーシック：初学者（学部生）を対象とした講義
- (c) 最強データベース教材：教員や企業での教育担当者を対象とした講義

(7) 講義コンテンツ活用に向けた広報や調査

(8) タグ付けや講義間の関係などの整備と公開

(9) 講義コンテンツ検索のためのインデックス作成

(10) コンテンツを利用した勉強会等派生イベント，他の活動(DEIM 等)への接続性の検討

9. 実施事業 6：データ作法(セミナー等) (定款第 4 第 1 項 1 号及び 5 号)

担当：セミナー委員会

本事業の目的は、セミナーを通じて、研究者や技術者がデータを利活用する際に必要となる法的な課題や倫理的な課題を熟知し、法的に問題とならないデータを利活用した研究開発の推進を支援することである。

【活動概要】

「私達は法に準拠してデータをどうやって集めてどのように使えばよいのか？」という研究者や技術者の疑問を解消するためのセミナーを 2019 年度から著作権法や個人情報保護法，AI や医学系研究の倫理等に関する課題などを対象として開催してきた。このような法律に関わる課題に取り組むため、法律の専門家による法的な話題の講演に加えて、企業などからの実践的な課題に対する講演，さらには参加者を交えた深堀の議論をするためのパネルディスカッションで構成されるセミナーを開催している。2025 年度は 3 回の実施を予定しており、一部対面での開催を予定している。さらに、講演者との間で取り交わす覚書を現状に合わせた形に修正するための検討を行う。

10. 実施事業7：学生企画（定款第4第1項3号）

担当：企画委員会

本事業の目的は、本学会に関わる学生の成長を促すことを第一義とし、学生自身が活躍できる機会を提供するものである。学生自身が関心を寄せるトピックを中心に、学生が主体的かつ能動的にイベント等の企画ならびに運営ができるよう、DBSJとして支援する。本事業は、「実施事業2：若手活性化」、および「実施事業8：産学連携推進」と関係するため、これらの事業と連携し推進する。

【活動概要】

(1) イベント・プログラムの企画～設計の支援

学生自身とのプレストを通じて、学生が求めている「場」を明らかにし、イベント等に仕立てるまでの伴走をする。イベントはオンラインに限らず、オンサイト開催も視野に入れて検討をする。

企画の工程やイベントそのものを通じて、DBSJに対する学生からの要望や意見を把握し、学生自身がより学会を有効活用できるようDBSJ自体のupdateを図る。結果としてより多くの学生に会員となって頂くことにも繋げていく。

(2) イベント・プログラムの運営支援

実際に設計されたイベントの開催において側方支援を行う。必要に応じて予算措置を講じる（会場手配や謝金等）

11. 実施事業8：産学連携推進（定款第4第1項3号）

担当：産学連携委員会

本事業の目的は、産学間、さらには産産間における技術的な情報の共有、人的な交流を促進することで、データ工学に関連する産業全体の発展を目指すことにある。本年度も引き続きインダストリアルからプロダクトやデータ、あるいはアカデミアにおける研究テーマになりうるような課題を提供し、それらを活用頂くためのプログラムやイベントを開催、それらの場を通じた交流を図る。

【活動概要】

(1) プロダクト提供型アカデミック支援プログラム

下記プロダクト活用を通じた研究を支援すると共に、研究を通じて人的交流を図る。

・東芝デジタルソリューションズ：GridDB Enterprise Edition（東芝様からは仮承諾済み）

(2) データ提供型アカデミック支援プログラム（IDR ユーザフォーラム）

DBSJ 維持会員企業ならびに国立情報学研究所 情報学研究データリポジトリ（以下、IDR）に参画している企業より希望者に対し実データを提供し、実データを使った研究を支援する。本プログラムの参加者は、研究テーマを自由に設定し、例年秋季に開催される IDR ユーザフォーラムにて成果を報告する。また同フォーラムにおける優秀な発表に対して DBSJ 特別賞を授与、副賞として同年度の DEIM に招待、口頭発表の機会も提供する。

(3) 産学マッチング促進プログラム

DBSJ 主催のイベントにて、産学連携を促進するための取り組みを実施する。

①人的交流に関するパネルディスカッション（6月のSoC2025を想定）

産学双方の有識者を招いたうえで、インターンシップ等の人的交流を促進するにあたっての課題点、アイデア等を題材としたパネルディスカッションの企画・実施

②学生のキャリア設計に資するイベントの実施（3月のDEIM2026を想定）

学生企画と連携をし、主に学生や若手研究者のキャリア設計に資する題材を扱ったイベントの企画・実施支援を行う。

(4) 維持会員向けフォローアッププログラム

DBSJ 維持会員間のノウハウ共有、および DBSJ 維持会員企業の DBSJ コミュニティ活用の加速を目的として、主に新規で DBSJ 維持会員になられた企業を対象としたフォローアッププログラムの設計及び運用を実施する。具体的には、維持会員側のニーズを伺ったうえで、DBSJ コミュニティの研究者とコミュニケーション、関係性構築のサポート、共同研究先・インターンシップアプローチ先の紹介等を行う。

1 2. 実施事業 9：情報システム（定款第 4 第 1 項 6 号）

担当：情報システム委員会

本事業の目的は、会員データベースシステム、会員メーリングリスト dbjapan 等の情報システムに加えて、本会ホームページ、本会 Facebook などの電子広報用のシステムやサービスの安定運用と維持管理を行い、本会の運営をサポートすることである。

【活動概要】

本会 Web ページや会員データベースの安定的な運用をはかる。

- (1) Web・会員 DB の運用・維持
- (2) メーリングリストの移行

1 3. 実施事業 10：広報（定款第 4 第 1 項 2 号）

担当：広報委員会

本事業の目的は、国内外の DB 関連技術の研究動向および DB コミュニティの活動動向を電子的に広報することである。

【活動概要】

・ News Letter の刊行

- (1) 発行巻 8 号：Vol. 18, No. 1～8

- (2) 掲載記事計画：

- ・ 定期(隔月)6 号：国際会議参加報告および会議開催報告など
- ・ 企画①：DBSJ 各賞 受賞者の声
- ・ 企画②：若手研究者の声など

- (3) 本会 Web ページにおいて News Letter のマルチメディア化を促進する

・ Web ページ運用システムの改修の検討

1 4. 実施事業 1 1 : 論文誌編集 (定款第 4 第 1 項 2 号)

担当：論文誌編集委員会

本事業の目的は、論文誌の発行を通じて、データベース、メディアコンテンツ、情報マネジメント、ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興を図り、もって学術、文化、ならびに産業の発展に寄与するという本学会の目的に貢献することである。

【活動概要】

日本データベース学会論文誌（和文・英文）および論文誌「データドリブンスタディーズ」を発行する。

- (1) 日本データベース学会論文誌（和文・英文）の発行
- (2) 論文誌「データドリブンスタディーズ」の発行
- (3) 論文誌に関する課題（投稿数増加，データアーカイブ）について検討

1 5. 実施事業 1 2 : 表彰 (定款第 4 第 1 項 8 号)

担当：表彰委員会

本事業では、功労賞，若手功績賞，上林奨励賞，業績賞を選定し、表彰を行う。

【活動概要】

2025 年度表彰として、例年通り功労賞，若手功績賞，上林奨励賞，業績賞を選定し、表彰を行う。規程や賞金額の見直しなどについて議論する。フェロー制度について検討を継続する。

1 6. 実施事業 1 3 : ハラスメント防止・DE&I 推進 (定款第 4 第 1 項 4 号及び 8 号)

担当：ハラスメント防止・DE&I 推進委員会

本事業の目的は、DBSJ 内のダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンを推進し、ハラスメントを防止するための活動を通して、DBSJ に関わる全ての人の基本的人権および尊厳を守り、各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることである。

昨年度まで委員会名および実施事業名に D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）を

使っていたが、最近一般によく使われるようになってきた DE&I（ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン）に変更する。

【活動概要】

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン推進のためのセミナーやパネルディスカッションを通じた啓蒙活動，さらに DEIM を中心とした学会におけるハラスメント防止などの活動を実施する。

(3) DE&I 推進事業（男女共同参画学協会連絡会への対応を含む）

① DBSJ 主催・共催イベントにおける参加者の希望に応じた託児および情報保障サポートの提供

② 後援予定：IEEE WIE 2025 他

(4) ハラスメント防止委員会

日本データベース学会関連イベントでの行動規範を宣言し Web で公表
行動規範逸脱の通報ルールに関する内規を整備・更新

[第 2 号議案]

2-2. 2025 年度予算計画書

1. 運転資金
2. 国際会議準備金
3. 事業積立金

1. 運転資金

2025年度 予算計画書

2025年4月1日～2026年3月31日

一般社団法人日本データベース学会

<http://www.dbsj.org/>

(単位:円)

【運転資金】

科目	2025年度予算額	2024年度予算額	差額	内訳
I. 収入の部				
1. 論文誌収入	350,000	500,000	▲ 150,000	
2024年度論文誌収入	350,000	500,000	▲ 150,000	
論文掲載料	350,000	500,000	▲ 150,000	2024年度実績をもとに計上
2. 会費収入	4,470,000	5,320,000	▲ 850,000	
維持会員年会費	4,200,000	5,200,000	▲ 1,000,000	非課税、2024年度実績をもとに計上
正会員年会費	270,000	120,000	150,000	非課税、90名分と想定(2024年度 92名)
3. 参加費	14,950,000			
3-1. 参加費 (DEIM以外)	0	0	0	
3-2. DEIM参加費	10,000,000	10,000,000	0	
3-3. DEIMスポンサー	4,950,000	4,500,000	450,000	課税、2024年度予算4,500千円＋税(2024年度 5,610千円)
4. 受託研究費	0	0	0	
5. 基本財運用収入	400	400	0	
6. その他	889,000	300,000	589,000	
事業積立金から繰り入れ	489,000	300,000	189,000	会員DBの保守費として事業積立金から繰り入れ
国際会議準備金から繰り入れ	400,000	0	400,000	国際連携費用として国際会議準備金から繰り入れ
当期収入合計(A)	20,659,400	20,620,400	39,000	
前期繰越収支差額	37,544,997	37,341,643	203,354	
収入合計(B)	58,204,397	57,962,043	242,354	

科目	2025年度予算額	2024年度予算額	差額	内訳
Ⅱ. 支出の部				
1. 論文誌刊行業務費	0	0	0	
2. 最強データベース	575,000	560,000	15,000	最強データベース講義費用 講師謝金 100千円(20千円×5回) 動画生成 75千円(15千円 x 5回) 文字起こしデータ整備(5千円x20回) 動画インデックス作成 300千円
3. 若手活性化	600,000	600,000	0	招待講演者招聘費用等(200千円×3件) 1オーガナイズセッションで20万円まで招聘できると アナウンス×3件
4. 会員交流	1,200,000	500,000	700,000	WebDBにおける交流会サポート 150千円 DEIM会員交流イベントサポート 350千円 DBSJからDEIMイベントサポート移管分:700千円
5. 表彰	600,000	400,000	200,000	2023年度実績をもとに計上
6. DEIM	10,000,000	10,000,000	0	前年度予算と同額計上
7. イベント・国際・学会連携	1,200,000	700,000	500,000	SIGMOD-J費用 700千円 タイ等連携費用 100千円 KJDB招待費用 300千円(国際会議準備金より繰り入れ) MOU締結費用 100千円(国際会議準備金より繰り入れ) 補足:中国出張者費用(300千円)はA3資金にて充当し DBSJ予算には計上しない。
8. DBSJセミナー	515,000	500,000	15,000	講師謝金((20千円×2)×3回+50千円) 講師旅費(50千円×6)(2回はハイブリッド開催) ウェビナー 15Kx3
9. 学生企画	500,000	600,000	▲ 100,000	昨年度は60万円の予算計上。実態は、24万円程度の支出 イベント回数が2回だったため、支出が少なかった。 3回実施しても予算的に耐えられるようにしたい。
10. 産学連携	300,000	360,000	▲ 60,000	前年度は36万円の予算計上。 今年度は、NII IDRユーザフォーラムのDBSJ特別賞の受賞者の DEIM招待費用として、12万円程度支出 招待者がNEC賞を受賞しており、かつ、DBSJコミュニティ外の学 生・先生だったので大変意義があったと感じている。 予算は据え置いたまま、来年度は(状況が許せば)複数名の招 待を検討していきたい。
11. ハラスメント防止、D&I	195,000	60,000	135,000	託児および情報保障サポート 170千円 男女共同参画学協会連絡会分担金 15千円 IEEE WIE 2025 スポンサー 10千円
12. 会議費	148,000	250,000	▲ 102,000	Zoom24千円x2、 オフライン50千円x2
13. 電子情報システム費	1,200,000	1,040,000	160,000	HP保守管理費 396千円 SSL証明書 44千円 ドメイン更新費 5千円 レンタルサーバー年間利用料 44千円 HPサーバーレンタル費 24千円 Boxレンタル費 198千円 会員DB年間保守管理費 489千円
14. コンテンツ整備費	100,000	100,000	0	英文化支援費等
15. 広報事業費	200,000	200,000	0	Webページ用コンテンツ(バナーイラストなど)のデザイン・作成
16. 事務局運営費	4,356,200	4,150,000	206,200	書庫・消耗品などからソフト利用料。保守料を分離 Slack10万を追加
17. 租税公課	470,000	0	470,000	法人住民税 70千円、消費税納付 400千円
18. 専門家委託費用	1,436,000	1,500,000	▲ 64,000	税理士 48千円 x 12、弁護士 660千円
19. DBSJ主催活動支援	0	1,500,000	▲ 1,500,000	交流委員会にマージする。
20. 新規事業予備費			0	
21. 事業積立金	0	0	0	事業積立金→0
当期通常支出合計	23,595,200	23,020,000	575,200	
22. その他(1)	0	0	0	
23. その他(2)	0	0	0	
当期支出合計(C)	23,595,200	23,020,000	575,200	
当期収支差額(A)-(C)	▲ 2,935,800	▲ 2,399,600	▲ 536,200	
次期繰越収支差額(B)-(C)	34,609,197	34,942,043	▲ 332,846	

2. 国際会議準備金

【国際会議準備金】

科目	2025年度予算額	2024年度予算額	差額	内訳
I. 収入の部				
1. 入金	4,500,000	0		
ADC2025協賛金の返却	1,500,000			
DASF2024協賛金の返却	3,000,000			
当期収入合計(A)	4,500,000	0	4,500,000	
前期繰越収支差額	11,315,134	12,315,134	▲ 1,000,000	2024年度にDASF2024協賛金の追加1,000千円
収入合計(B)	15,815,134	12,315,134	3,500,000	
II. 支出の部				
1. 国際会議支援金	1,900,000			
国際連携 (KJDB, 中国対応)	400,000			国際連携費用として運転資金に繰り入れ
ADC2025協賛金	1,500,000			
当期支出合計(C)	1,900,000	0	1,900,000	
当期収支差額(A)－(C)	2,600,000	0	2,600,000	
次期繰越収支差額(B)－(C)	13,915,134	12,315,134	1,600,000	

3. 事業積立金

【事業積立金】

科目	2025年度予算額	2024年度予算額	差額	内訳
I. 収入の部				
1. 当該年度積立金		0	0	
2. 入金	0	0	0	
当期収入合計(A)	0	0	0	
前期繰越収支差額	10,247,167	6,547,167	3,700,000	2024年度に4,000千円積立
収入合計(B)	10,247,167	6,547,167	3,700,000	
II. 支出の部				
1. 事業積立金費用	0	0	0	
2. 会員DB整備事業費	489,000	300,000	189,000	会員DBの保守費として運転資金に繰り入れ
当期支出合計(C)	489,000	300,000	189,000	
当期収支差額(A)－(C)	▲ 489,000	▲ 300,000	▲ 189,000	
次期繰越収支差額(B)－(C)	9,758,167	6,247,167	3,511,000	